

次世代医療ICT基盤プロジェクト

全国共同利用型 国際標準化EHRプロジェクト

◎次世代医療ICT基盤開発プロジェクト（資料1a, 1b）

安倍内閣の成長戦略を構成する医療分野で、今後極めて重要となる医療ICT基盤の開発を目的とする。健康医療戦略推進本部（内閣総理大臣を首班とする）の下部組織として設置。

◎次世代医療ICT基盤タスクフォース

2014年3月～7月まで4回のタスクフォース会議が開催され、中間提言を策定、公開した。

<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/kenkouiryou/jisedai/dai3/siryou.pdf>

9月～10月にかけて、これを協議会に格上げし、来年度にいくつかの応用開発が行なわれる予定。

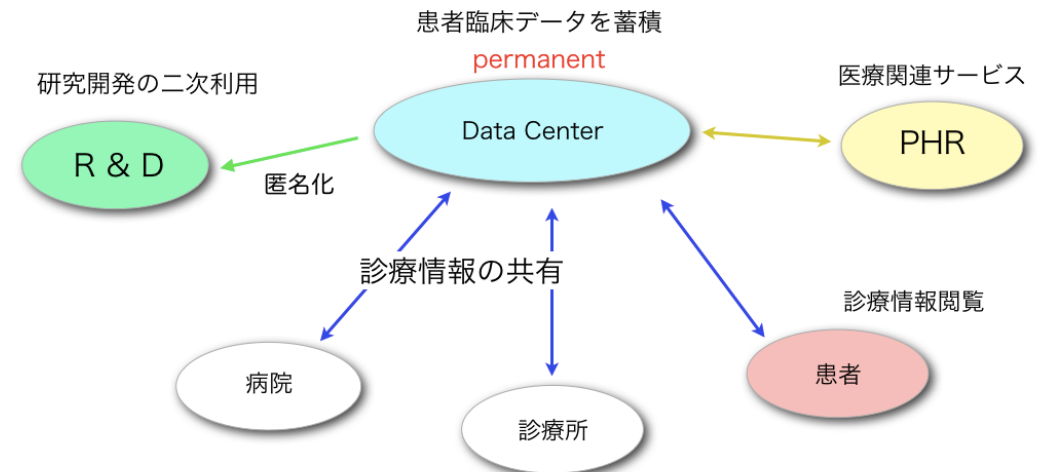
◎応用プロジェクト

この応用開発の一つとして、当初、資料2に示すような3レイヤーの研究開発を提案した。内閣官房の示唆により、これを拡張し、宮崎を含む複数地域をフィールドとして拡張した、標題の提案を行う予定となりつつある（資料3）。

◎2001年から14年間稼働している国内規格のデータセンター（EHR：iDolphin）を国際規格

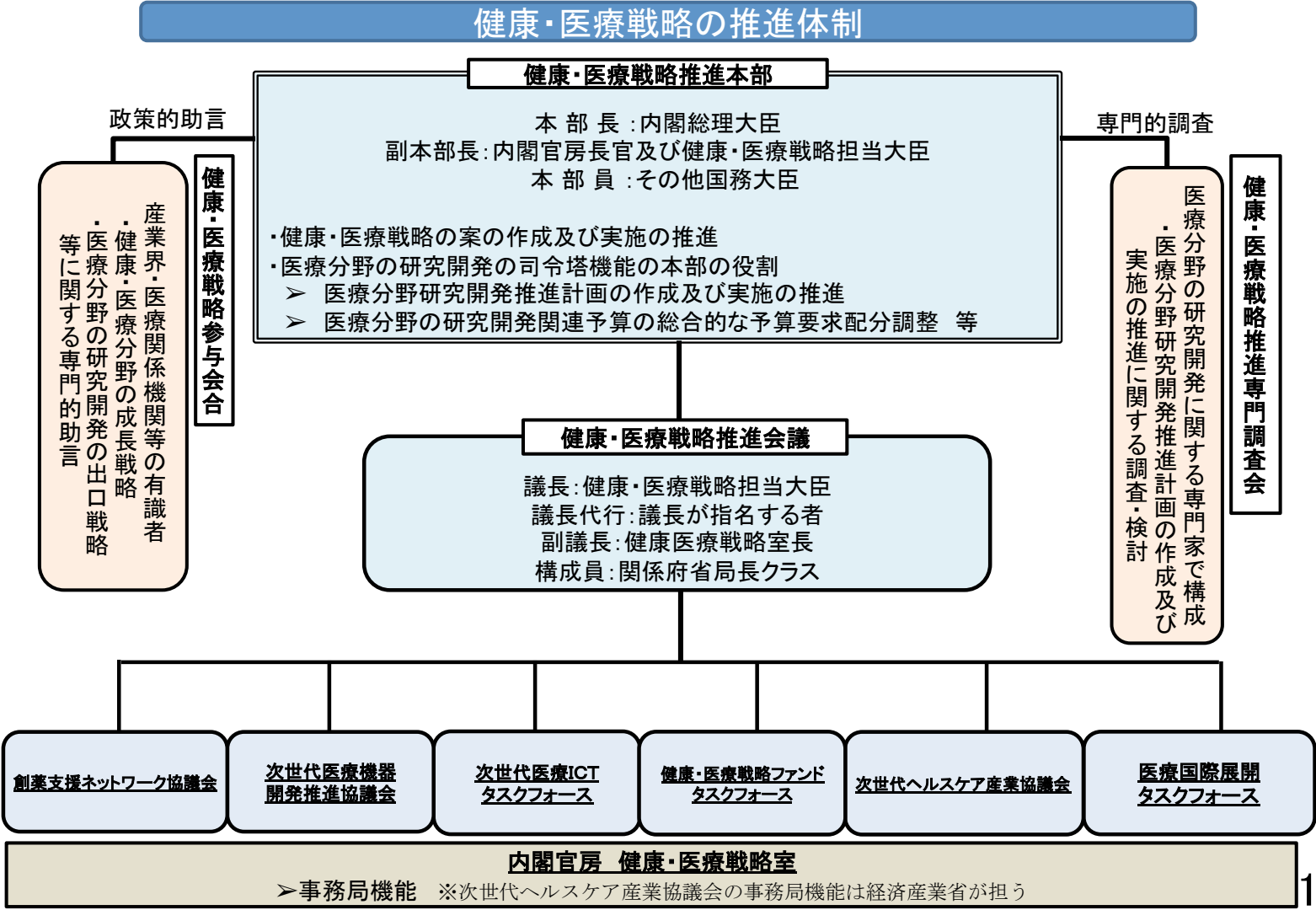
（ISO13606）に準拠したものとし、この規格に基づいたEHRを再開発（gDolphin）。日本レベルでの共同利用システムとして拡張する。最終的にはクラウドサービスを目指し、具体的には、

- （1）患者へのデータ開示
 - （2）医療機関同士の情報共有
 - （3）匿名化データの2次利用
- が予定されている（資料4）



医療データセンター（EHR）の概念

すでに2001年に宮崎、熊本、京都、東京で稼働中



次世代医療ICTタスクフォースの設置について

1. 目的

- 医療・介護・健康分野(以下 医療)における徹底的なデジタル化・ICT化を図り、世界最先端の医療を実現する。具体的には、医療における、①場所性、②時間制約、③侵襲性等を排除・克服することにより、例えば、医療機関のマネージメント(ロジスティックを含む)をリアルタイムで制御する、効果的で効率的な医療の実現。また、これらのシステムで生じられるデジタルデータの利活用による医療の高度化、効率化 等が推進される環境を実現。
- これらの実現は、日本医療研究開発機構(仮称)(AMED)が臨床研究の強化を図る際、①臨床現場の多忙さ、②分散している研究現場、③健診情報等多用なデータが未活用の状況 等を解決、世界最先端の臨床研究を実現するためにも必須。

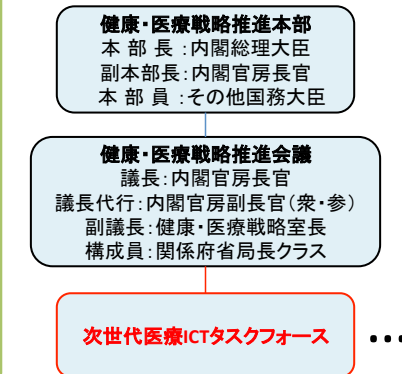
2. タスクフォースの設置

- 健康・医療戦略(平成25年6月14日関係閣僚申合せ)等に基づき、次世代型の医療機器、病院システムの開発・実装促進や、臨床研究基盤の強化に資するデータ利活用の高度化等を推進するため、健康・医療戦略推進本部の下に、IT総合戦略本部と連携しながら、次世代医療ICTタスクフォースを設置する。(タスクフォースの設置については、産業競争力会議 医療・介護等分科会 中間整理(平成25年12月26日策定)等においても記載。)

3. 構成員

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ○ 議長 : 内閣官房健康・医療戦略室長 ○ 有識者: 飯塚 悦功(東京大学名誉教授) (五十音順) 菊地 眞((公財)医療機器センター理事長) 近藤 達也((独)PMDA理事長) 神成 淳司(慶應義塾大学環境情報学部兼医学部准教授) 田中 紘一(医療法人社団神戸国際フロンティアメディカルセンター理事長) 永井 良三(自治医科大学長) 矢作 尚久((独)国立成育医療研究センター) 山本 隆一((一財)医療情報システム開発センター理事長) 吉原 博幸(京都大学名誉教授) ○ 事務局: 内閣官房健康・医療戦略室 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 関係府省: 内閣官房内閣審議官(内閣官房副長官補付) 内閣官房情報通信技術(IT)総合戦略副室長 総務省政策統括官(情報通信担当) 文部科学省研究振興局長 厚生労働省政策統括官(社会保障担当) 農林水産省食料産業局長 経済産業省商務情報政策局長 財務省主計局(オブザーバ) (一社)MEJ(オブザーバ) ※新しい病院システム等の国際展開等の視点 |
|--|--|

【体制図】



4. 今後のスケジュール

- 平成26年3月24日: 健康・医療戦略推進本部の下に、「次世代医療ICTタスクフォース」を設置。
- 平成26年3月26日: 「次世代医療ICTタスクフォース」の第1回会合を開催。健康・医療分野における徹底的なデジタル化・ICT化へ向け、①新サービス創出、②効果的・効率的な医療、③治療の質・安全性の均一化、④コホート研究・臨床研究基盤の強化を含む、関係府省等が連携して推進するための行動計画の原案等について議論を開始。
- 平成26年7月18日: 関係府省等が連携して次世代医療ICTを推進するための具体的アプローチをとりまとめた、「中間とりまとめ」を策定。

2014.3.26 吉原博幸

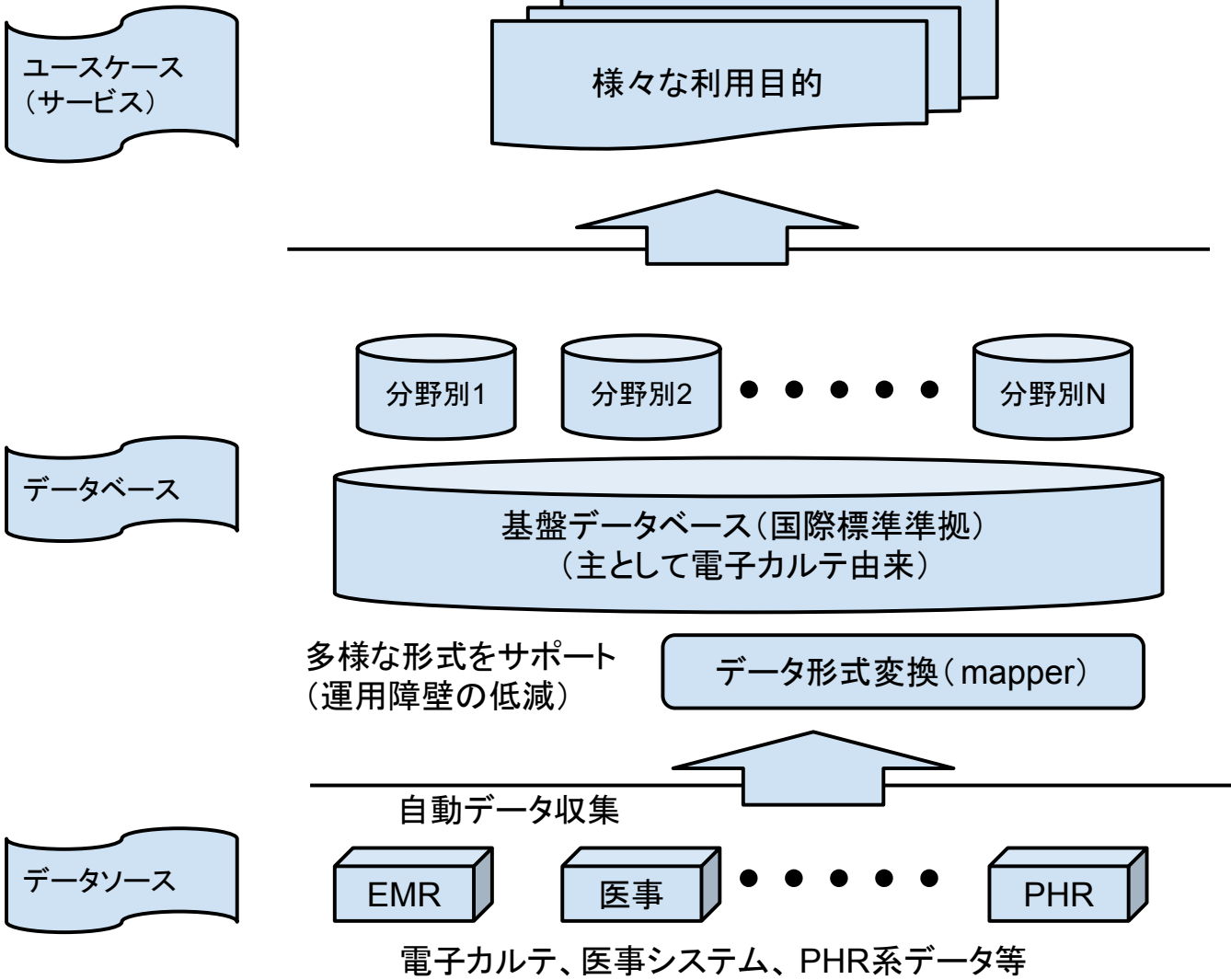
メディカルデータ基盤の概念(メモ)

重要課題

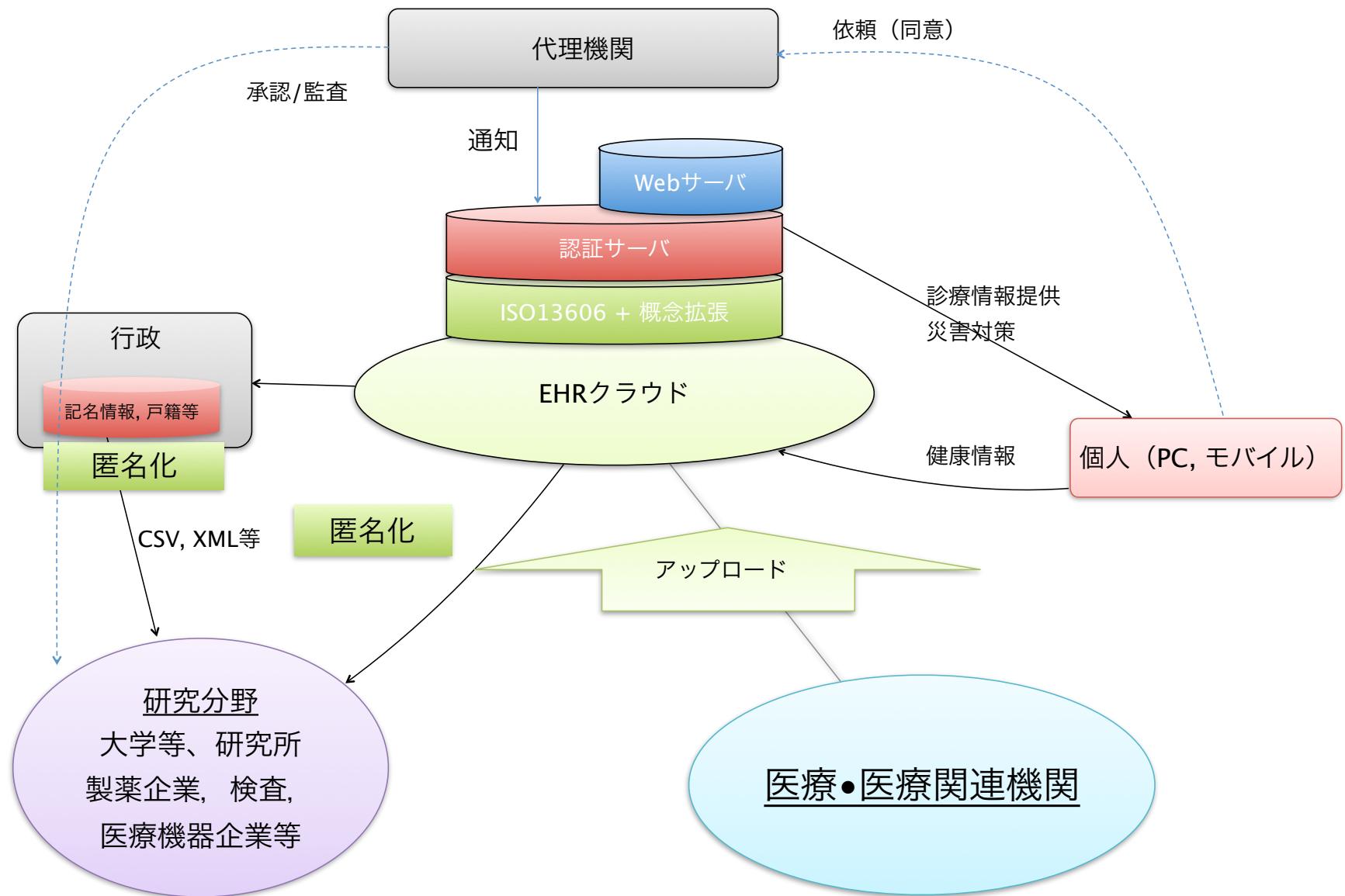
- 1) 国民健康IDの確立
- 2) 全ての医療データ*の構造化
(利活用への必須条件)
- 3) データ保存交換規格の国際対応
(国際協調・競争力の担保)
(ISO13606準拠)
- 4) データの共通化
(相互可用性の担保)
(数値データの変換基準)
- 5) 事業の継続性
(運営主体・方法)
(情報活用のルール)
- 6) 匿名化基準の明確化(法律等)

* 構造化データ(例)

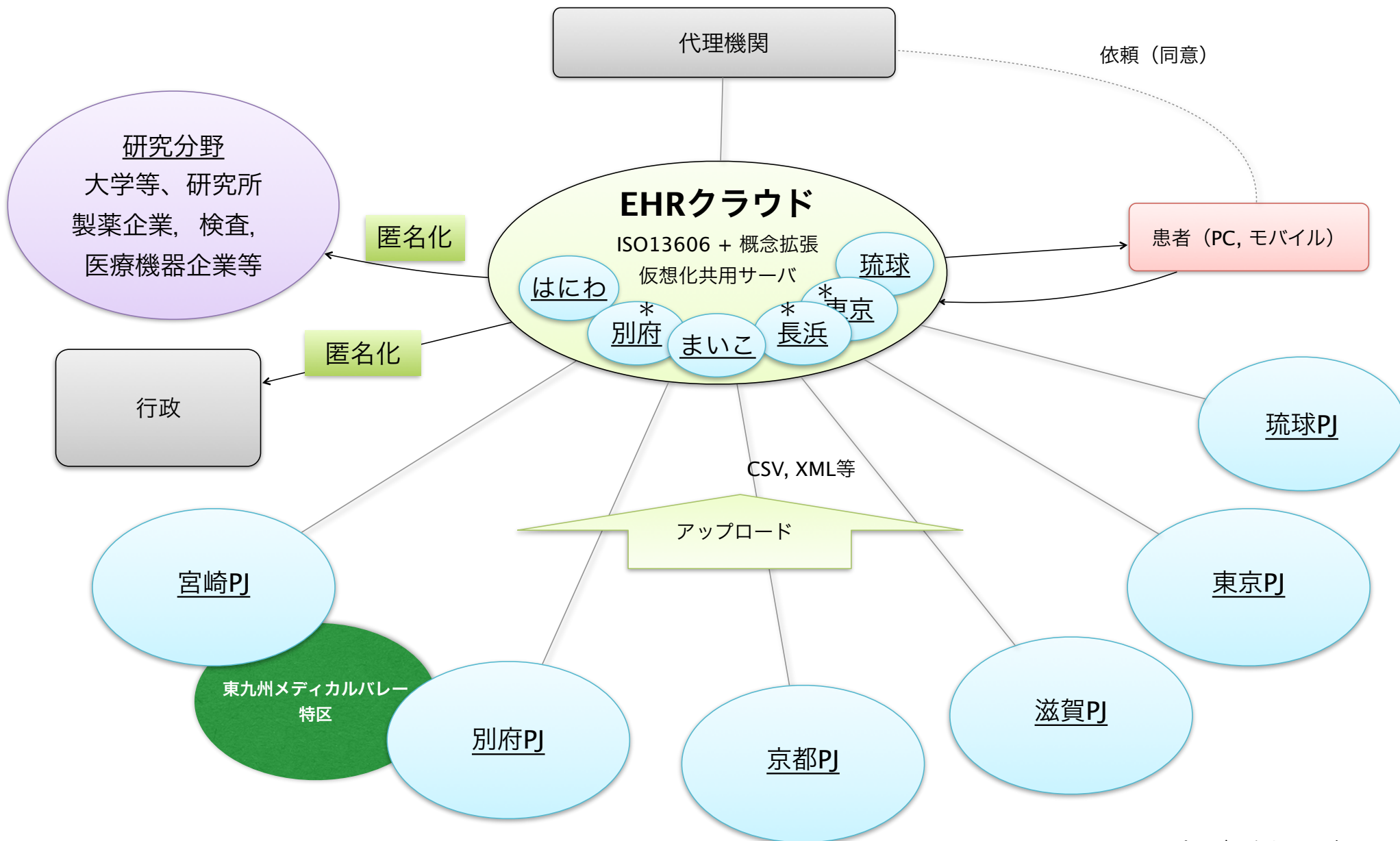
基本情報、保険、病名、生活習慣、家族歴・ワクチン歴、初診時記録、経過記録、処方、検査結果、処置、手術記録、入院時サマリ、週間サマリ、退院時サマリ、紹介状、各種報告書、医事データ(重複)、介護記録、バイタルサイン



資料3 EHRを中心とした医療情報循環モデル



資料4 EHRを中心とした医療情報循環モデル（全国共同利用型モデル）



*プロジェクトは予定